

メディカル企業紹介

サラヤ株式会社 伊賀工場

伊賀市の南部、名張りに近い安場にサラヤ(株)の伊賀工場があります。大阪府柏原市の大阪工場が手狭となったことから、平成10年に工場を立ち上げました。今ではパートの方やシルバー人材も合わせて約130人の方が働いています。向かいには5000坪の拡張用地があり、第2のマザー工場として飛躍が期待されています。専務取締役の富田工場長はじめ、伊賀工場の皆さんに同社と伊賀工場の特徴についてお話を伺いました。



■伊賀工場



■専務取締役の富田工場長と伊賀工場の皆さん

環境重視の経営で急成長中

ヤシノミ洗剤で有名な同社は、熊野出身の現会長が創業者です。戦後の衛生環境が悪い時期に手洗い事業をスタートさせ、当初から環境に配慮したもののづくりを行ってきました。故郷の美しい川を汚すことのないように、自然で分解されるヤシ油系石けんに取り組んだのが始まりです。10年前に現社長になってからも環境配慮とビジネスを車の両輪とする姿勢は変わりません。ポルネオでのバームヤシ畑による環境破壊を防ぐために野生の象を救うプロジェクトに参画したり、熱帯雨林保護の提案を行い、原料への天然物利用を基本に、ISO14000の取得はもちろん、太陽光発電やピオトープなどあらゆる環境への配慮を行っています。環境重視の経営が評価されるようになり、このところ年率8%の急成長を続けています。既にタイ、アメリカ、中国にも展開し、手洗い事業で世界のリーディングカンパニーになることが目標です。伊賀工場の生産品はアルコール系洗剤、消毒剤、うがい薬など。主原料のアルコールの消費量は、中部地区でも多い部類に属します。アルコールももちろん天然由来で、天然でできるものは天然でというのが方針です。

メディカルバレー構想には人材や企業交流の窓口を期待

伊賀工場では、操業開始以来、地元の高校などから人材を採用してきたため、若い人材が多く、平均年齢は30才前後です。ただ、理科系の学校から人が集まりにくく、例えば企業を退職した方でもかまわないので、分析のできる人材を求めています。その人材確保の窓口としてメディカルバレーに期待しています。

また、食品会社の衛生管理手法など、他社のやり方を知ることは刺激になるので、メディカルバレーでは、そのネットワークを生かして他社を見せていただけるような企画があれば良いと思います。

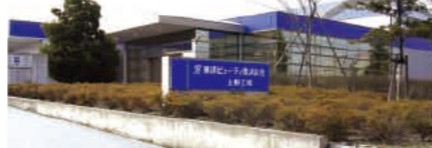
【会社概要】

創業年：昭和27年
本社所在地：〒546-0013 大阪市東住吉区湯里2-2-8
事業所所在地：〒518-1145 伊賀市安場字八十判1774-4
電話：0595-39-1234
FAX：0595-39-1230
URL：http://www.saraya.com/
資本金：4,500万円
代表者：更家悠介(代表取締役社長)
事業内容：業務用・家庭用の洗浄剤、消毒剤とその専門供給機器、機能性食品、ヘアケア・スキンケア商品、消臭・芳香剤の開発・製造・販売。

東洋ビューティ株式会社 上野工場



■福岡工場長



■上野工場

伊賀市の「ゆめほりす伊賀」に東洋ビューティ(株)の上野工場があります。同社は化粧品、医薬部外品の受託製造をおこなっている企業です。同社の福岡工場長に上野工場の取り組み、伊賀の薬事工業の交流について伺いました。

伊賀に来て取引先が倍増

東洋ビューティ(株)の本社は大阪市内にあります。1941年の創業以来、高い技術力を誇る化粧品メーカーとして化粧品産業の発展と共に歩んできました。

「お客様の満足、価値ある製品づくり」をモットーに研究開発に力を入れており、原料開発、コンセプト・デザイン提案、処方設計、機能性・安全性評価などがシステム化され、あらゆる面で、お客様をサポートできる体制になっています。生産品目は基礎化粧品、ヘアケア製品、ボディケア製品、サンケア製品など、多くの化粧品を提供しています。

上野工場は、本社工場の老朽化に伴い、移転先を求めて近畿地方一円で用地を検討した結果、最終的に多くの要件が満たされた上野に進出を決定しました。決め手となったのは交通の利便性が良いこと、水がきれい豊富なことなどがあげられます。当社は他に、つくば(茨城県)と宇都宮(栃木県)に工場があります。これらの工場は大量生産の受託生産が主で、上野工場では多品種の製造を行うという役割分担を行っています。上野工場の現在の取引先は約100社。1999年の移転時には約50社でしたので、倍増したことになります。これも「ゆめほりす伊賀」に開設した新工場の効果だと思えます。お客様が見学に来られるので、工業団地の手入れが行き届いていることは魅力であり、ありがたいことです。

ゆめほりす伊賀はフランクな関係

伊賀では薬事工業会の活動が活発で、同業者がフランクに話をできる環境ができているのも、課題解決や互いの仕事の融通に助かっています。他県の工業団地ではこのような関係はないのではないのでしょうか。ゆめほりす伊賀には立地企業連絡会があり、年1回、互いの工場の見学会などを開いています。

また大学との関係では、来年度には三重大学の伊賀研究拠点ができますので、大学の進出が伊賀の企業への学生の就職につながるのではと期待しています。

【会社概要】

創業年：昭和16年
本社所在地：〒537-0021 大阪市東成区東中本3-13-8
事業所所在地：〒518-0131 伊賀市ゆめが丘7-6-1
電話：0595-26-3151
FAX：0595-26-3153
URL：http://www.toyobeauty.co.jp/
資本金：4,500万円
代表者：岩瀬保彦(代表取締役社長)
事業内容：化粧品、医薬部外品の受託製造、新製品の企画・研究開発業務の受託等

研究者紹介



鈴鹿医療科学大学
鍼灸学部鍼灸学科学科長

佐々木和郎教授

西洋医学のみの医療から、西洋医学と東洋医学など伝統医学の良いところを組み合わせた統合医療が目まぐるしく注目されています。昨年、みえメディカルバレー研究会の統合医療研究会を立ち上げられた佐々木和郎教授に、ご自身の研究について、また統合医療についてお聞きしました。

鍼灸のツボに客観性を与える

私の専門は耳鼻咽喉科の鍼灸医学です。筑波大学を卒業、同大学で教職に就いた後、昭和58年に新設された京都府の明治鍼灸大学に移りました。明治鍼灸大学は当時専門学校レベルまでしかなかった鍼灸学について、大学レベルの教育・研究を行うためにつくられた大学です。4年前、鈴鹿医療科学大学に鍼灸学部が新設されたとき、学科長として招かれました。

これまでの研究では、施術者の感覚によって伝えられてきた鍼灸を客観化するために、様々な機器や用具を作ってきました。感染を防ぎ施術が容易なディスプレイ鍼、センサーで皮膚の粘性・弾性を測る装置、筋肉の弾性を再現した刺鍼練習台、超音波診断装置による刺鍼部位の画像化、触診を客観化する触覚センサー、お灸の温度が分かる温度計などを企業との共同研究などで開発・製品化しました。

鍼灸学には、耳鼻咽喉科鍼灸のほか、歯科鍼灸、美容鍼灸、スポーツ鍼灸など多くの応用分野があります。大学での鍼灸学は、経験を科学的に裏付ける古くて新しい学問です。

統合医療を地域の企業とともに

西洋医学が部分部分を治す医療なのに対し、鍼灸医学を含む東洋医学は身体全体を治す全人的医療です。西洋医学の問題点・限界が明らかになるにつれて、この両者の良いところを組み合わせた統合医療に注目が集まっています。鍼灸学科を持つ大学は全国で6大学ですが、鈴鹿医療科学大学は文部科学省から全国で初めて統合医療に関する科学研究費をもらうことになりました。

三重で統合医療研究会を始めた背景には2点あります。一つは、これまで西洋医学専門だった病院・医療現場に、東洋医学を取り入れたいという動きが県内でも出てきていることです。もう一つは、健康をテーマとした地域の企業と、地域の特性を考えたマッチングを行う必要が増してきたことがあげられます。

2007年11月26日に津で、第1回統合医療研究会が開催され、好評をもって迎えられました。今後の研究会では、鍼灸以外の医療についてもコーディネートしたいと考えています。例えば三重の伝統薬は、かつて富山の薬にも匹敵しましたが、今は廃れてきています。これを研究会の中にグループを作り、復興したいと考えています。また、ヨガなどの運動について客観的なデータを取りながら産学連携で研究を進めることや、ツボを利用した健康機器、腰痛防止シートなどの機器開発を地域の企業と取り組むこと、福祉に伝統医学を応用することなど、できることから手を付けていきたいと考えています。



■ディスプレイ鍼での施術

伊勢市の取り組み～伊勢市産業支援センター

伊勢市では、平成20年4月のオープンに向けて、伊勢市産業支援センターの整備を進めています。センターの機能と特徴について、伊勢市産業部の森参事をはじめ、産業支援センター準備室の皆さんにお話を伺いました。

ものづくり系既存企業の支援と企業誘致の推進



■伊勢市産業支援センター完成予想図

伊勢市産業支援センターは、ものづくり系の既存企業の支援と起業家の育成、企業誘致を目的として産業振興を図ろうとする施設です。建物は朝熊町の「まつり博・三重'94」跡地に建設中で、敷地面積は約3,000㎡、建物面積は約1,200㎡です。周囲には「サン・サポート・スクエア伊勢」の名称で企業誘致用地が整備され、「環境」と「健康」関連に特化した企業の集積をめざしています。この特徴からセンターでは「内発型事業(地域産業の活性化)」と「誘致型事業(企業誘致活動)」を事業の両輪とします。事業の一部は、昭和26年に設立され、市内企業のものづくり支援を行ってきた伊勢市工芸指導所の機能を引き継ぐ施設として開放試験室があり、試験や検査を行える機器が利用でき、また材料試験室や作業実習室、漆芸室、研修室を備えています。市のレベルでこのような施設は、全国でも珍しいのではないのでしょうか。オープン後は、三重県産業支援センターや三重大学との連携も計画されています。

県内初の市直営起業家支援施設

起業家支援施設を市が直営するのは県内で初めてのことで、内発型の事業化で実績のある起業家支援施設「花巻市起業家支援センター(岩手県)」を参考としました。起業家支援施設の運営については、(株)百五経済研究所に委託しました。起業家支援施設には、起業家をサポートし、事業創成のための問題を解決に導く中心的人材であるインキュベーション・マネージャー(IM)が置かれます。このIMには、松下氏が着任します。専任のIMを配置するのも県内では初めてです。また工業系の専門家も週に数日勤務し、IMを補佐して指導を行います。施設は起業家支援室(メイン)5室と企業準備支援室(プレ)4ブースからなり、低価格のオフィスと様々なきめ細かなソフト支援を提供します。24時間利用可能な施設です。業種での入居制限はありませんが、退去後は原則、伊勢市で事業を行う必要があります。伊勢市産業支援センターがものづくり系の中小企業・起業家支援を行うことで、伊勢市の産業の活性化や雇用の創出につながります。

今後は「健康」に特化した企業を支援する点で、メディカルバレー構想とも連携した事業が行われることが期待されます。



■伊勢市産業支援センター準備室の皆さん

お問い合わせ

伊勢市産業支援センター準備室
住所：〒516-8601 伊勢市岩瀬1-7-29
TEL:0596-21-5569
E-mail:sangyo-o@city.ise.mie.jp
伊勢市産業支援センター所在地
伊勢市朝熊町字藪谷4383-469